

ガソリンの詰替え販売時 に確認の徹底を！！

昨年12月に発生した大阪市北区のクリニック火災では、購入したガソリンが放火に使われたと報道されています。

ガソリンは引火点が低く、火災になったときの延焼が非常に早く、非常に危険です。

建物内で放火された際、建物に備え付けのスプリンクラー等の消火設備でも消火に間に合いません。

ガソリンの詰替え販売をする際、いまいちど、ガソリンの使用目的の確認、運転免許証等による本人確認等の徹底をお願いします。

ガソリンの引火点は -40°C
であり、外気による揮発性も
高いです！！



使用目的の確認

本人確認の徹底を！！

また、詰替え販売の際、ガソリンと灯油を間違えて販売する事故も発生しています。灯油と思って販売したのに中身はガソリンだった場合、灯油にガソリンが混じっていた場合など、いずれも火災の原因になり危険です。詰替えをする際は、危険物取扱者の方が立ち会い、誤販売を防ぎましょう。



引火点が違うため、石油ストーブにガソリンを入れると激しく燃焼します！！